

第 1 部

制度への学際的アプローチ

第一部は、本研究プロジェクトの概念設定および総論にあたる。最初の「研究のアイデアと報告者の相互連関係」は、多島研センターでのシンポジウムのもととなった科研費調査「フィリピン地域社会経済の学際的研究—行為主体と制度的枠組の相互作用を中心として—」を進める段階で、研究代表者・分担者が討論しあった内容を反映している。この研究プロジェクトでは、互いに異なる研究領域の研究者が、各自の研究手法と対象をばらばらに提示するのではなく、多少の無理はあってもお互いの関連性を意識して調査研究をすすめることを特にこころざした。その関係は4ページの見取り図に示した通りであるが、これにより共同研究のあらたなスタイルを模索したつもりである。ただし、シンポジウム終了後、十分でなかった概念のすり合わせを少しでも可能にしようと、編者二人の研究領域からの制度論へのアプローチを追加した。このふたつのレビューでは、制度をその運用から捉えようとする研究プロジェクト全体の基本的視角の理論的背景を経済学、文化人類学それぞれの領域において整理している。その点では後追いの議論ではあるが、しかし同時に第二部の各論への導入としての意義ももっている。